

## はじめに

教務主事

高等専門学校（以降、高専）の使命は、創造力を備えた実践的技術者を育て、広く世界に送り出す事にあります。従って学生諸君には、『福井高専卒業後は問題解決能力を持った能動的な技術者として、様々な課題を抱える現実社会をよりよくしていくために貢献して行く』という気構えを常に持ち続け、日々の学習に取り組んでほしいと思います。

さて、我が国に初めて高専が設置されたのは昭和 37 年です。創設の背景には、その当時の我が国経済の高度成長がありました。閣議決定された第一次全国総合開発計画では、「地域間の均衡ある発展を目標とし、人間の能力の開発において、高専の配置は中堅技術者に対する地域の需要にこたえるように推進されなければならない」と謳われています。

福井高専は昭和 41 年 4 月 1 日に設置され、機械工学科、電気工学科（平成 17 年に電気電子工学科に改組）、工業化学科（平成 7 年に物質工学科に改組）の 3 学科に 126 名の第 1 期生を迎えました。さらに、昭和 45 年に土木工学科（平成 5 年に環境都市工学科に改組）が、昭和 63 年に電子情報工学科が増設され、現在の 5 学科体制となり、平成 10 年には、本科（5 年間）の卒業後、さらに 2 年間高専で学べる専攻科を設置し、学士を持つ修了生を送り出してきました。

高専教育の特徴は「5 年間一貫教育」、「早期技術者教育」にあり、高校や大学とは異なる独自の教育体系によって、創設以来、世の中のニーズに応える優秀な技術者を送り出し社会から高い評価を得ており、求人倍率の高さは、諸君の先輩方が一線で活躍し、社会に貢献している証であると言えます。本校はこれまでに六千余名の卒業生を準学士として世の中に送り出しています。その為、本科課程を準学士課程と呼びます。

このシラバスは、本校における準学士課程の教育内容が書かれています。本校には、基本理念とそれに基づく教育方針があります。それに加え、現代社会からの要請を取り入れた学習・教育目標と養成すべき人材像も併せて掲げています。これらは皆さんが福井高専（準学士課程）を卒業する時に備えるべき知識と能力を表しています。シラバスにはこの知識と能力を身につけるための各学科のカリキュラムの流れ、各科目と学習・教育目標との関係、各科目の授業内容・到達目標などが明示され、今、学んでいる科目でどのような知識が身につくのか、将来どのような科目に結びついて、卒業時の能力とどのように関連しているのかが解るようになっています。学生の皆さんはこのシラバスを座右に置き、授業内容を把握し、予習を行ったり、すでに習った関連科目の復習を行ったりして、授業に臨んでいただきたい。理解を深めるために利用していただきたい。そうすることで皆さんの将来を切り開き世界に羽ばたく為の礎にして欲しい。私達はその願いを込め、このシラバスを作っています。

高専生である君たちには、常に先を見据え、巣立つ時の自分の成長を想像し、自ら掲げた目標に挑戦しながら高専生活を有意義に過ごしてくれる事を切望いたします。

## 履修単位と学修単位について

教務主事

学生の皆さんが履修している単位計算が、平成17年9月9日付けで、高等専門学校設置基準の一部変更として、文部科学省令によって変更されました。

今回の改定は高等専門学校にも大学と同様に授業に自学自習を認め、授業形態、授業方法に多様性を持たせることを目的としています。これは国際的な流れでもあります。

このように、高専の単位計算を大学と同じにすることで、高専以外の高等教育機関との授業の互換性を高め学生の単位取得互換・編入などの円滑な実施をも目指しています。

\*したがって、平成18年度より、すべての授業科目は次の二つのように分けられます。

### (1) 履修単位 (30単位時間履修単位)

平成17年度までの履修単位と全く同じで、1単位の授業科目を30単位時間(1単位時間は50分)の履修。100分授業の場合は15単位時間で1単位となります。

### (2) 学修単位 (45時間学修単位)

平成18年度から各高等専門学校に導入された、大学と同様な単位計算で、授業時間以外に必要な学修を考慮し、1単位の授業科目を45時間の履修とするもの。1コマ90分の授業の場合、授業以外に90分の学修(学生による自学自習を含む学習のこと)が必要となります。

\*各学年の授業科目は次のようになっています。

#### (1) 1学年から3学年まで

すべての授業科目が「履修単位」です。

#### (2) 4学年から5学年まで

各学科とも、約20単位の「学修単位」があり、その他は「履修単位」です。

\*「履修単位」と「学修単位」の区別はこのシラバスの一番上の欄に明記されています。また、各授業において担当教員から説明がありますので、それぞれの学習方法を理解して授業に臨んでください。